

説明会の総括

1. 説明会実施概要

- ・総参加者数：188名
- ・実施地域：薦原全地域（46名）、家野（20名）、薦生（15名）、八幡（26名）、さつき台（42名）、鵜山（12名）、西田原（27名）

2. アンケート概要

(1) 実施概要

- ・アンケート回答数：154件
- ・実施地域：薦原全地域、家野、薦生、八幡、さつき台、鵜山、西田原
- ・回答者の年齢構成：70代以上（72名）、60代（28名）、50代（19名）、40代（10名）、30代（5名）、20代（0名）、10代（0名で）、未回答（20名）であり、高齢層が中心。

(2) 主なアンケート結果

Q1. 説明会の内容理解度

- ・理解できた：90件（58.4%）
- ・理解できなかった：61件（39.6%）

Q2. 構想案全体の印象

- ・期待している：58件（37.7%）
 - ・期待していない：90件（58.4%）
- 期待していない意見が上回っている。

Q3. 地域発展への期待

- ・そう思う：51件（33.1%）
- ・そう思わない：98件（63.6%）

地域発展につながるとの評価は3割程度に留まり、約6割が懐疑的。

Q4. 自由記述（ご意見やご提案などがありましたらご記入ください）の内容

- ・総意見数：141件

○計画への反対・慎重論（45件）

「絶対反対」「承認できない」「白紙撤回してほしい」といった強い反対意見や、他地域への変更、計画の強行に対する不信感。

○安全性・健康・環境への懸念（17件）

排出ガス、騒音・振動、悪臭、火災への対応、健康被害への不安、悪影響に対する具体的な数値や根拠の提示を求める声。

○計画への賛成・期待・条件付き賛成（15件）

「地域が発展するなら是非進めてほしい」「子どもたちのために有意義なものに」「安全性が担保され、恩恵があるなら協力したい」などの前向きな意見。

○スケジュール・行政の姿勢・不信感（１２件）

議論や手続きのスピードが早すぎる（急ぎすぎ）、過去の失政・不信感、メリットばかりの説明に対する不満、住民投票の実施を求める声。

○交通・搬入路に関する懸念と要望（１１件）

通学路（公園前など）の安全性への不安、大型トラックの交通量増加、道路の拡張や「専用搬入路」の新設を求める声。

○事業スキーム・公民連携・経済性への疑問（１１件）

民間企業に任せることへの不安（責任の所在や癒着）、収支予測、財政負担、利益ばかりが追求されないかという懸念。

○候補地選定の妥当性に対する疑問（１０件）

「なぜ薦原地域なのか」「他の候補地はどこか」「全市民に説明して立候補を募るべき」といった選定プロセスへの疑問。

○情報共有・説明会の運営方法への要望（９件）

質疑応答や他地域の事例のまとめを各家庭・各区へ配布してほしい、再説明会の開催、より丁寧で具体的な説明の要望。

○地域活性化・インフラ整備への要望（６件）

パーク整備やコンビニ・温水プール誘致、道路・橋の整備など、地域にとっての具体的なメリットや恩恵を求める声。

○その他（ごみの分別、資源化、その他）（５件）

生ごみの微生物発酵やリサイクル・分別を優先すべき、今後の対話継続への前向きな姿勢など。

（３）アンケートから見えた課題等

①理解度と評価のギャップ

説明会での理解度は５８．４％と過半数ですが、期待度は３７．７％に低下しています。説明内容の充実だけでなく、説得力や信頼構築が課題と考えます。

②地域別の温度差

地域によって期待度に大きな差がありました。

③強い反対意見

反対・慎重論が４５件と最多で、全体の約３２％を占めています。懸念事項への具体的な対応策提示が求められています。

④信頼と透明性の要求

行政姿勢への不信感（１２件）、事業スキームへの疑問（１１件）、候補地選定への疑問（１０件）など、プロセスの透明性と信頼構築を求める声が多くありました。

⑤具体的な情報提供の不足

安全性・環境への懸念で「具体的な数値や根拠の提示を求める声」があり、より詳細で根拠のある説明が必要と考えます。

⑥若い世代の参加が極めて少ない：アンケート回答者の年齢構成で、10代・20代の参加者が0名、30代が5名（3.2％）に留まっています。一方、70代以上が72名（46.8％）と多数となっています。このため、事業の長期的な影響を受ける若い世代や子育て世代の意見が十分に反映されていない可能性が考えられます。

3. 主なQ&Aの整理

説明会での意見や質問の中から、以下のとおり多かったものを抽出し、その意見や質問を（1）【市の方針として決定したこと】、（2）【市の方針段階で、事業者決定後に詳細が決定すること】に整理しました。

（1）【市の方針として決定したこと】

Q1：なぜ薦原地域が予定地として選定されたのか

現在の状態：市の方針として決定済み

＜決定内容＞薦原地域（伊賀南部浄化センター跡地）を建設候補地の1つとして選定

＜決定根拠＞適地選定委員会の答申、迅速な事業実施、有効な跡地活用、敷地面積、多面的な価値創出の可能性

Q3：200t／日規模の施設が必要な理由

現在の状態：市の方針として決定済み

＜決定内容＞日量200トンの処理規模を基本方針として決定

＜決定根拠＞サウンディング型市場調査での事業継続可能性の確認

（2）【市の方針段階で、事業者決定後に詳細が決定】

Q2：民間事業者活用時の行政関与・監視体制・財政負担

現在の状態：市の方針段階

＜決定済みの方針＞

- ・SPCの運営に市が内部から参画
- ・市が大きな発言権を持つ仕組み
- ・出資者としての権利に基づき、施設への自由な立ち入り・確認
- ・専門職員の廃棄物処理担当部局への配置
- ・定期的なモニタリング会議の実施
- ・三重県との連携

＜未決定事項＞

- ・職員の常駐の要否
- ・具体的な人員体制
- ・具体的な財政負担額

Q4：30年の期限と規模拡大の確約

現在の状態：市の方針段階

＜決定済みの方針＞

- ・事業期間を新施設稼働後少なくとも30年間を想定

- ・ 30年満了時に施設解体撤去と継続利用の可能性を検討
- ・ 勝手な規模拡大は認めない
- ・ 協定や契約でルールを明確化

<未決定事項>

- ・ 協定・契約の具体的な条項内容
- ・ 30年後の判断基準

Q5：過去のデータ改ざん問題への監視体制

現在の状態：市の方針として決定済み

<決定済みの方針>

- ・ 連続自動測定装置の設置・測定を市が直接実施
- ・ 定期的な第三者機関検査の導入
- ・ 排ガス数値のリアルタイム公開
- ・ ダイオキシン類の毎月測定・公開
- ・ 周辺地域での測定・データ公開

<未決定事項>

- ・ 測定装置の具体的な設置位置・仕様
- ・ 第三者機関の具体的な検査頻度・内容
- ・ データ公開の具体的なシステム

Q6：搬入ごみのチェック体制と不純物混入時の責任

現在の状態：市の方針段階

<決定済みの方針>

- ・ 市と地域が認めたもののみ受け入れ
- ・ 二重チェック体制（事前審査＋受入時チェック）
- ・ 事前チェック：写真、理由書、フロー図、委託契約書の提出と厳格審査
- ・ 受入時チェック：目視確認＋資料との照合
- ・ マニフェスト携帯・確認の徹底
- ・ 市による不定期実地検査
- ・ 違反時の業務改善指示
- ・ 三重県への報告と行政処分への連携

<未決定事項>

- ・ 具体的な受け入れ基準の詳細
- ・ 受け入れ対象となる産業廃棄物の具体的な種類・範囲
- ・ 実地検査の具体的な頻度
- ・ 事業者決定後に決定される内容：

Q7：交通・通学路の安全対策

現在の状態：市の方針段階

<決定済みの方針>

- ・ 地域の安全・安心が最優先事項
- ・ 車両通行ルート工夫
- ・ 運行時間の制限

- ・交差点の改良

＜未決定事項＞

- ・具体的な通行ルート
- ・具体的な運行時間（何時～何時か）
- ・交差点改良の具体的な内容

Q 8：事業者の信頼性審査・選定基準

現在の状態：市の方針段階

＜決定済みの方針＞

- ・公募型プロポーザル方式を採用
- ・価格だけでなく、安全性、環境への配慮、地域貢献度を総合評価
- ・複数の優良企業が参加できる公平で透明性の高い基準を設定
- ・市がSPCに出資して経営情報を把握
- ・モニタリング会議で経営状況を厳しく監視
- ・実施協定で事業継続困難時の市の介入権と代替事業者への引き継ぎ義務を明確化

＜未決定事項＞

- ・具体的な評価基準の詳細
- ・市の介入権の具体的な内容

Q 9：産業廃棄物の範囲と混入防止

現在の状態：市の方針段階

＜決定済みの方針＞

- ・産業廃棄物は一般廃棄物と同様のものを基本
- ・事前に市と地域で協議して承認したもののみ焼却
- ・瓦礫やコンクリートなどの不正な混入や持ち込みは一切認めない
- ・受入物の厳格な検査と屋内での適切な保管・処理

＜未決定事項＞

- ・受け入れ対象となる産業廃棄物の具体的な品目
- ・市と地域の協議プロセス

Q 10：地域同意の基準と決定方法

現在の状態：地域と協議中

＜決定済みの方針＞

- ・地域同意につきましては、どのように総意を図るかなど、具体的な手法を含め協議してまいります。
- ・地域の皆様のご理解とご同意が得られないまま事業を進めることは考えていません。
- ・合意形成が図られない場合は、本事業の計画を中止・白紙に戻すことも含めて適切に対応します。

＜未決定事項＞

- ・「地域同意」の定義
- ・同意を図る具体的な手法
- ・同意の基準